

静岡県の植物

カケガワザクラ（掛川桜）

杉野孝雄

カケガワザクラの存在に気付いたのは2011年の春である。掛川市の逆川沿いに植えてあるユリが咲き始め「ユリの開花セシモニー」が開かれた時のことである。逆川の堤防にサクラが植えてあるのは知っていたが、植えて間もなく、あまり気にしていなかった。植えたのは田旗造園の田旗康二氏で、当日出席していたので、この桜について尋ねると、山取りのサクラを増殖し、230本ほど植えた。カワヅザクラに似ているが花期が1週間程遅いとのこと、花期は終わっていたが、改めてよく見ると、カワヅザクラと樹形が異なる。

翌年の開花を待ち伊豆に行き、カワヅザクラの原木やシュゼンジカンザクラなど類似種と比較して調べた。カワヅザクラに比べると、花期以外にも花は下向きで、やや小さく色が濃い、花が集まり手毬状に咲くなどの違いがある。これだけでは感覚的な違いで決定的ではない。形態的な違いはないかとさらに調べると、萼片が卵状三角形全辺で鋸歯がない。カワヅザクラは卵形で鋸歯がある。そこで新品種と確信した。

当時、会長をしていた掛川市緑化推進委員会で、花が立派な新品種のサクラがあることを説明し、掛川市のサクラとして育てたいと、和名について聞いた。掛川城主の山内一豊の妻お千代に因んで「お千代ザクラ」の名も挙げられたが、掛川市の知名度の向上にも役立たせたいと、カケガワザクラ（掛川桜）と命名した。

さらに、新品種である認定を受けることにして、公益財団法人「日本花の会」に申請した。「日本花の会」では書類審査、現地審査をして、カンヒザクラ系統の新品種、掛川桜（カケガワザクラ）*Cerasus* 'Kakegawa'とし



カケガワザクラと掛川城



カケガワザクラ

て、2014年10月2日に認定した。

その後、カケガワザクラは順調に成長し、桜の名所として新聞でも取り上げられるようになり、花期には大勢の人で賑うようになっている。

特徴とカワヅザクラとの違いは、『遠州の自然』38号「掛川で発見された新園芸品種カケガワザクラ」に詳細に説明されている。